

音楽的映画としての「ラヴ・ミ・トゥナイト」

寺田寅彦

青空文庫

この音楽的映画の序曲は「パリのめざめ」の表題楽で始まる。

まず夜明けのセーヌの川岸が現われる。人通りはなくて朝霧にぬれたベンチが横たわり、遠くにノートルダムノートルダムの双生塔がぼんやり見える。眠りのまださめぬ裏町へだれか一人自転車を乗り込んで来て、舗道の上になんだか棒のようなものを投げ出す。その音で長い一夜の沈黙が破られる。この音からつるはしのようなもので薪を割る男が呼び出される。軒下に眠るルンペンまきのいびきの音が伴奏を始める。家の裏戸が明いて早起きのおかみさんが掃除そうじを始める、その箒ほうきの音がこれに和する。この三つの音が次第に調子を早める。高角度に写された煙突から朝餉あさげの煙がもくもくと上が

り始めると、あちらこちらの窓が明いて、晴れやかな娘の顔なども見える。屋上ではせんたく物を朝風に翻すおかみさんたちの群れもある。これらの画像の連続の間に、町の雑音の音楽はアクセレランドー、クレッセンダーで進行して行つて、かくして一人の巨人としての「パリ」が目をさましてあくびをする。これだけの序曲が終わると同時に第一幕モーリス住み家の場が映し出されるのである。この序曲はかなりおもしろく見られ聞かれる。試みに俳諧連句はいかいれんくにしてみると

朝霧やパリは眠りのまださめず

かし
河岸のベンチのぬれてやや寒

ありあけ
有明の月に薪を取り込んで

あちらこちらに窓あける音

とでもいったような趣がある。

「イズンティット・ロマンテイク」の歌の連続が次のような順序に現われる。始めはモーリスが店の三枚鏡の一枚一枚に映りながらこれを歌う。この歌が街頭へ飛び出して自動車のおやじから乗客の作曲家に伝染し、この男が汽車へ乗ったおかげで同乗の兵隊に乗り移る。兵隊が行軍している途中からこの歌の魂がピーターパンの幽霊のような姿に移って横にけし飛んだと思うと、やがて流浪の民の夜営のたき火のかたわらにかなでられるヴァイオリン

の弦のしらべに変わる。この音の流れて行く末にシャトーのバルコニーが現われて夢見るような姫君のやるせない歌の中にこの同じ主題が繰り返さる。そうして最後のリフレインで「イズンテ イット・ロマーン」まで歌った最後の「ティツク」の代わりに、バルコンの下から忍びよるド・サヴィニャク伯爵の梯子はしごが石欄に触れる「ティツク」の音を置き換えてある。ばかげているようであるが、この音で夢の世界から現実の世界へ観客を呼び返す役目をつとめさせているのである。

公爵のシャトーの中のかび臭い陰気な雰囲ふんいき気を描くためにいろいろな道具が使われているうちに、姫君の伯母おば三人のオールドミスが姫君の病氣平癒へいゆを祈る場面がある。それが巫女みこの魔法を修す

る光景に形どつて映写されているようであるが、ここの伴奏がこれにふさわしい凄惨せいさんの気を帯びているように思う。哀れな姫君の寝姿がピアニシモで消えると同時に、グワーツとスフォルザンドーで朗らかなパリの騒音を暗示する音楽が大波のようにわき上がり、スクリーンにはパリの町の全景が映出される。ここの気分の急角度の転換もよくできている。

モーリスがシャトーの玄関をはいつてから、人けのない広間をうろつきまた駆け回る場面の伴奏も抑揚変化が割合によくできていて人を飽きさせない。

医者みやくはくが姫君を診察するとき、心臓の鼓動をかたどるチンパニの音、脈搏みやくはくを擬する弦楽器のピツチカツトもそんなにわざとら

しくない。

モーリスの出現によつて陰気なシャトーの空気の中に急に一道の明るい光のさし込むのを象徴するように、「ミミーの歌」の一連の連続が そうにゆう 挿入されてインタリユードの形をなしている。むつかしやの にがむし 苦虫の公爵が寢床の中でこの歌を始める。これがヴァレンティヌ夫人、ド・ヴァレーズ伯爵、ド・サヴィニヤク伯爵へと伝播する。最後の伯爵のガス排出の音からふざけ半分のホルンの一声が呼び出され、このラッパが しかが 鹿狩りのラッパに轉換して そうかい 爽快な狩り場のシーンに推移するのである。あばれ馬のあばれ方は愉快であるが、鹿の走り方は少しおかしい。あれは追わるる鹿ではない。モーリスが馬と「話し合いで別れて」鹿と友だ

ちになつているところは傑作である。「静かにお帰りください」で引き上げる狩^{かりうど}人たちのスローモーションは少し薬がきき過ぎた形である。

舞踊会の「アパツシユの歌」とその画面は自分にはあまりおもしろくなかった。何かが一つ足りないような気がする。どこかに無理があるであろう。

仕立て屋だということがわかってからの「ナツシンバツタテラ」の繰り返しもわりにおもしろくできている。家扶家従、部屋^{へや}付き女中、料理人、せんたく女と順々にこれが伝わって行つて、最後にはいよいよ引き上げて行くモーリスに、執^{しゅう}念^{うね}く追い迫るスキヤンダルの悪魔のささやきのようなささやき声の「ナツシン

バッタテラ」が繰り返される。これはかなり印象的である。これを聞いて帰宅して晩に寝ようとする、枕まくらもとの時計の音が「カッチン、コッチン、カッチン、コッチン、ナツシン・バッタテラ」というふうに聞こえたくらいである。

最後の汽車と騎馬との追っ駆けは、無音映画としてはあまりに陳ちんとう套な趣向であるが、しかしあの機関車の音と画像と、馬のひづめの音と足搔あがきの絵との加速度的なフラッシュ・バックにはやはりちよつとすぐにはまねのできない呼吸のうまみがあるようである。

この映画は一面にはこうした音楽的な構成においていろいろな試みをしている。この点においてこの映画の創作者ルーバン・マ

ムーリアンは一つの道楽をしてひとりで悦に入っている感がある。しかしまた一面においては常設館の常顧客であるところの大衆の期待に応ずるような手ごろの材料をかなりに盛りだくさんにあんばいすることに骨を折ったようである。たとえばド・ヴァレーズ伯爵がけしからぬ犯行の現場から下着のまままで街頭に飛び出し、おりから通りかかった馬拉ソン競走の中に紛れ込み、店先の値段札を胸におつつけて選手の番号に擬するような、卑猥ひわいであくどい茶番はヤンキー王国の顧客にはぜひと必要なものであろう。また後庭林中の夜のラヴシーンはシュヴァリエ・マクドナルドの賛美者たる若きファンのための独どくじんとう参湯としてやはり欠くべからざる一要件であらう。それからまた鹿狩しかがりの場に現われた貴族的な

スポーツ風景は国粹主義の紳士淑女を喜ばすものであり、シャトーにおける生活の空虚と痴愚を露骨に風刺する多数の画面は卑近な民衆イデオロギーに迎合するものであろう。その中で比較的成効しているのは、サヴィニャク伯爵が恋敵のモリスの化けの皮を引きはぐつもりで鹿狩りを割愛し、半日ばかりで貴族系譜の数十巻をしらみつぶしに調べ上げ、やっと目的を達したと思うと、ド・ヴァレーズのでたらめを鵜のみにする公爵のあほうのために苦心が水の泡になり、そのいまいましさを片手の鷺ペンといつしよに前方に突き出す瞬間の皮肉な心理描写であらう。

三人の伯母たちが何かというときようぎようしく階段や廊下を駆け回る。その時のおおぎような甲高い叫び声が狩り場の群犬の

ほえ声にそっくりであるのは故意の寓意か暗合かよくわからない。
 この三人が、姫君のためにはハッピーエンド、彼らの目には悲劇
 であるかもしれない全編の終局の後に、短いエピソードとして現
 われ、この劇の当初からかかっていた刺繡ししゅうのおとぎ話の騎士の
 絵のできあがったのを広げてそうして魔女のような老嬢の笑いを
 笑う。運命の魔女が織り成す夢幻劇の最後の幕の閉じる幔幕まんまくと
 してこの刺繡の壁掛けを垂下したつもりであるかもしれない。

このようにいろいろな味のちがったものを多数に全編の中に取
 り入れて、趣味のちがった多数の観客の享楽に適するようにしよ
 うとすれば、どうしても多少の無理が起こりやすい。それをこの
 くらいにまでまとめ上げるのはやはり凡手ではできないであろう。

それにしてもクレールの「パリの屋根の下」や「自由をわれらに」のようなものに比べると、どうしても少しごたごたした感じのするのはやむを得ない。

しかしこの映画はまたまさにそういう点から見て、未来の音映画の進化の径路を暗示するものと思われる。この映画の傾向を次第に発展させて行けば結局は日本固有の俳諧連句はいかいれんくを視覚化したようなものに近づいて行くであろうと思う。私は日本の一流の映画家、音楽家、俳人が力を合わせて、西洋人に先鞭せんべんをつけられないうちに、一日も早くオリジナルで芸術的でしかも大衆的におもしろい俳諧連句的映画の創作に着手する事を切望するものである。

（昭和七年十一月、キネマ旬報）

青空文庫情報

底本：「寺田寅彦隨筆集 第三卷」小宮豐隆編、岩波文庫、岩波書店

1948（昭和23）年5月15日第1刷発行

1963（昭和38）年4月16日第20刷改版発行

1997（平成9）年9月5日第64刷発行

入力：（株）モモ

校正：かとうかおり

2003年6月25日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

音楽的映画としての「ラヴ・ミ・トゥナイト」

寺田寅彦

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>